

3. 魅力ある建築物創造事業

3.1. 魅力ある町、広島を目指して

1. で述べた通り、広島県は厳島神社や原爆ドームといった2つのユネスコ世界遺産を有する建築や環境の資源において高い発信力を有するエリアである。特に、原爆ドームを含む平和記念公園は、絶望的な状況の中から知恵を広く集めることで、未来に繋がり、世界に広く受容される枠組みを創出したもので、能力による設計者選定の価値が示された事例とも言える。県内には、建築学科を有する高等教育機関が存在し、国内のみならず世界を視野に活躍する建築設計者や高い技術力を有する建設会社も多いなど、建築に関する資源にも

恵まれている。

また、2. で述べたように能力に基づいた設計者選定を契機として、地域の活力を拓く様々な試行が展開され、それなりの評価が得られている。

こうした状況を踏まえ、広島県では、2013年度から「魅力ある建築物創造事業」を展開し、魅力ある地域環境の創出を目指し、優れた建築物の整備や保全を行うことを通した人々の創造的活動の支援とその発信に取り組んできた。以下にこの事業の3つのコンセプトを掲載する。

- ① 県民の協働による創造的な活動を促進し、魅力ある地域環境を創出
本県は、地方にありながら建築分野において多くの強みを持ち、建築文化の創造的活動の拠点となってきた。そうした伝統を踏まえ、本事業では、優れた建築は、優れた能力を持つ建築設計者や施工技術者によって創出されることを基本とし、そうした専門家が地域に住む人々と協働することで、その創造性がより発揮される良質な地域環境を生み出す。
- ② 世代の再生産にも配慮した発信力のある事業
本事業では、学生を対象とした育成事業はもとより、魅力ある建築物の見学会や表彰など、教育・啓蒙活動を積極的に展開する。さらに、プロポーザルにおいては、参加する方々の負担を減らしつつ、能力を適正に測る選定方法の開発と普及について考究するなど、設計・建設産業における次世代の育成にも対応する。
- ③ 合理的かつ経済的な方法による良質な地域環境の創造
少子高齢化の中、社会をどのように維持していくかは現代に生きる私たちの重要な使命である。本事業では魅力ある建築物を創造する上で重要なポイントである建設ストック全体に目配せし、ライフサイクル全体で見た社会資本整備の効率化に努める。特に計画の初期に事業規模や機能について適切に検証するなど、優れた地域環境と経済性の確保の両立を目指す。

○目指す将来像

1st Step きっかけづくり	2nd Step 関心の高まり	Final Step 目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ○協定締結したクリエイティブな団体との連携協力体制を強化 ○広く提案を求め、最適な設計者を選定し、質の高い魅力ある公共建築物を創出 ○学生からも新しいアイデアを募集し、公共建築物の設計に反映させていくことにより、次世代を担う人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○民間の魅力ある建築物を県民とともに再発掘・再発見し、広く発信することにより、魅力創造に対する意識を向上 ○魅力ある公共建築物の情報を発信・アピールし、注目度を向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力創造の仕組みの構築などを通じて、広島発の魅力ある建築物が持続的に創造されることにより、本県のブランドイメージを向上 ○「ひろしま」ブランドの国内外での認知・評価が高まることで、観光誘客・定住促進において「魅力ある地域」として選ばれ、持続的に地域経済を活性化



3.2. 広島型建築プロポーザル

世界遺産に認定された厳島神社とその周辺は、自然の豊かなポテンシャルを読み解き、人がそこに建築を巧みに挿入することでその価値をより豊かにする、建築的叡智の表象でもある。広く解釈するとこの精神は丹下健三による広島平和記念公園にも引き継がれており、創造的建築の提示を介して、未来の資産となる豊かな環境を作り上げる方法は、広島の歴史に根付いたアプローチとも言える。

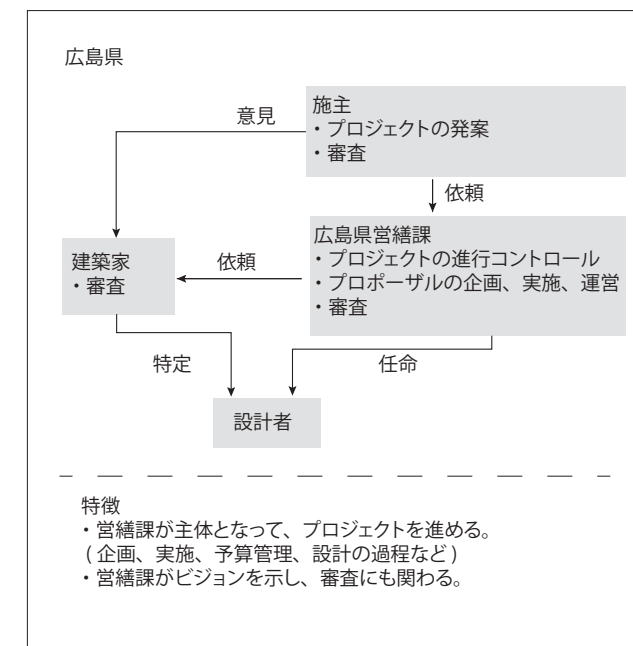
「広島型建築プロポーザル」は、これを現代に再生させようとしたもので、次の4つのねらいを掲げて実施されている。

- ①参加資格のオープン化
- ②建築関係団体との協定に基づく審査委員の選定
- ③技術提案書を重視した審査
- ④公開ヒアリングなど審査過程を透明化

このうち、①の参加資格のオープン化は、丹下健三が若干36歳で広島平和記念公園の設計競技に勝利したように、門戸を開くことによって優れた提案を広く集めることを意図したものである。②では、専門的知識を持った地域資源を活用することで持続可能な形で事業を展開することが意図されている。③の技術提案書の重視は、人を選ぶプロポーザルというスタンスを取りながらも、案の持つ可能性をつかみ取ることで未来を拓こうとする意図がこめられている。県の営繕部

- 1 **参加資格のオープン化**
ねらい 参加資格要件をできるだけ撤廃することで、門戸を広げ、公平に幅広く優れた提案を受けます。
- 2 **建築関係団体との協定に基づく審査委員の選定**
ねらい 審査委員の固定化を防ぎ、審査委員の透明性を確保します。
- 3 **技術提案書を重視した審査**
ねらい 実績のみならず、技術提案書を重視した審査を行うことで、優れた設計者を選定します。
- 4 **公開ヒアリングなど審査過程を透明化**
ねらい 公開ヒアリング、評価要領の公開、特定された技術提案書の公開など、公平性・透明性を確保します。

門が所掌することで、技術的な支援が可能である。最後の④公開ヒアリングにおいては、開くことで審査の公平性・透明性を担保すると共に、プロポーザル案として可視化された未来を多くの県民と共有し、地域の可能性を共に考えてもらう意図が存在する。



広島型建築プロポーザルにおける組織関係図



公開審査会の様子



グローバルリーダー育成校（広島教育学園）プロポーザル選定案

3.3. プロポーザルの運営

プロポーザルは、参加する多くの設計者から案を募り、その条件の中で最も相応しい方策とそれを実行する能力のある設計者を選定する手法であり、優れた環境を作り出すことが出来る方法として広く用いられている。その一方で、①時間がかかる、②費用がかかる、③自治体にプロポーザルを行うノウハウがない、④地域住民や他の職員の理解を得るのに工夫が必要、といった課題も存在する。

本ページではプロポーザル方式の検討段階から随意契約に至るまでの応募者と発注者、両立場の流れを示しつつ、各段階における注意事項やその実現のために心掛けるべきことを併記する。プロジェクトの規模や特性によってプロポーザルの進め方は変わってくるので、類似事例を参照するなど、注意が必要である。日本建築学会による「長く大切にされる公共施設のための提言」などを例示しながら、以下にポイントを述べておきたい。

①審査基準の開示

より多様で内容ある提案が得られる可能性が失われてしまうことを避けるため、どういった評価基準で審査をするのか、事前の開示は必須となる。一方、案が集まってから見えてくる部分も存在するため、柔軟な判断が市民から支持されるよう、選定過程の公開などを通じて公明性を確保しておくことも必要である。

②関心表明書

公示内容を確認して、まず応募者が提出するのが関心表明書である。特に、規模の小さな会社の多い設計業界では、全国の自治体にくまなく指名願いを出す事務所が少ないため、自治体への指名登録願の事前提出は条件に含めないほうが良い。また、関心表明書に簡単な事業に対する考え方や設計チームの組成を求め、それによって粗選りする事例も散見されるようになっている。

④直接対話による要求水準の不完全性の補完

EUなどで広く用いられる競争的対話（Competitive Dialogue）と呼ばれる手法がある。これは、現在日本で行われている面接より長い時間をかけて行うもので、発注者と最終候補者が要求水準書を補完するために行う直接的対話である。発注者が追加説明をして設計者の対応の仕方を問うなど、提案の実現に向けて踏み込んだ対話をする。この手法によって、設計者選定をより確実なものにすることができる。

⑥プロセスの継続性

構想、設計者選定、建築の実現は、数年間を要する長期の事業で、その間に状況は様々に変化する。必須項目とした要求水準でも、設計段階で柔軟な解釈が求められるなど、時間への対応が必要である。一方、人事異動などで、前段での意図が失われ、企画段階で検討した知が継承されず、初期の目的を達成するための包括的対応が困難になる事態も発生しがちである。こうしたことを防ぐために、要求水準の作成に力を借りた専門家とその後も継続的に協働する、審査委員が検討委員としてその後も関わり続けるなど、継続性への配慮が重要となる。

③技術提案書

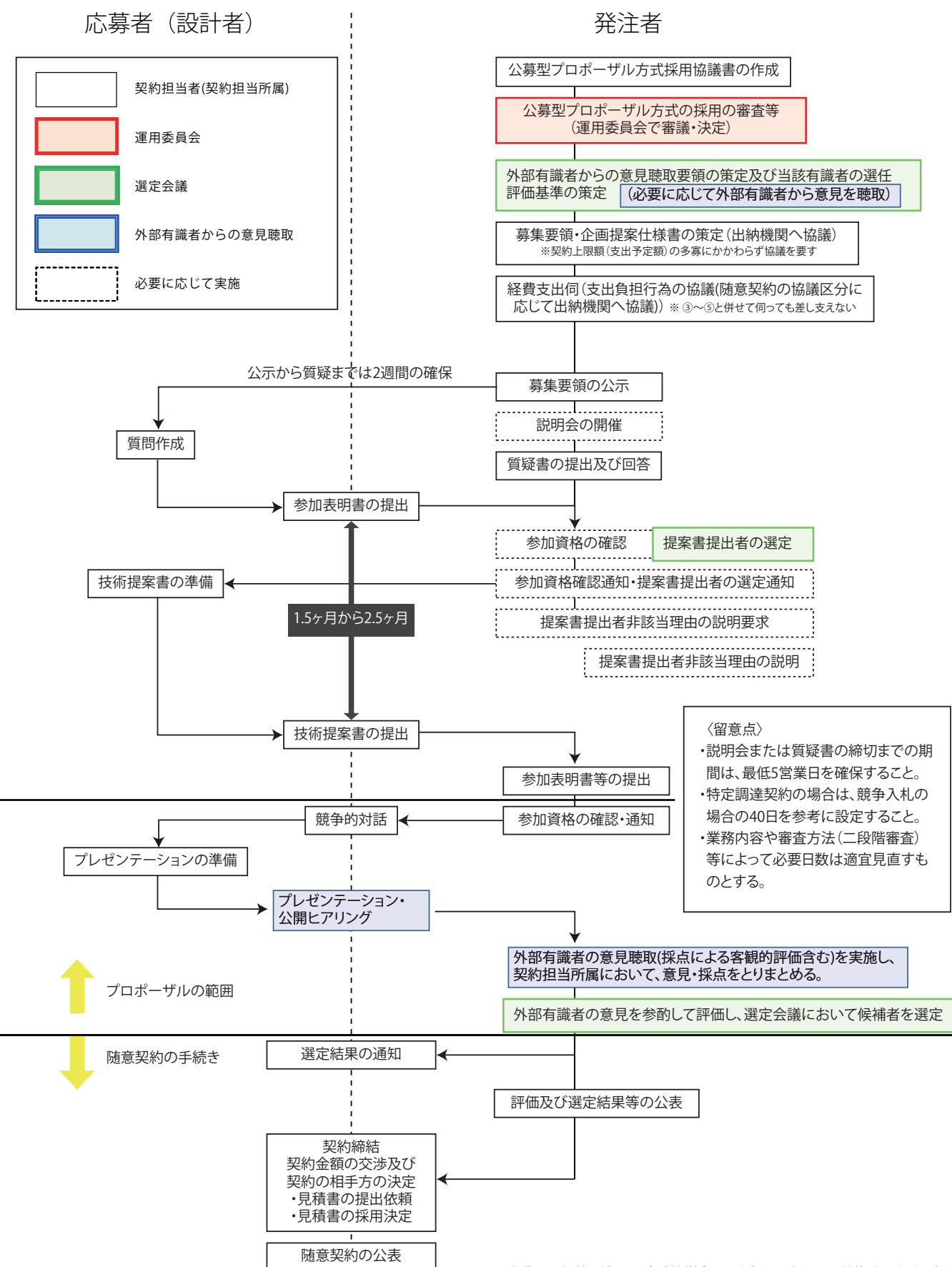
プロポーザルは設計競技に比べて、選考した設計者との協議により実施案をまとめる柔軟性を発注者に保証する方法であり、その提案の扱いについては様々な解釈も存在する。しかしながら、設計者の思考やその設計能力を、審査員のみならず市民にも共有してもらうには、具体性のある配置・平面・断面計画図、外観・内観スケッチ等の表現は不可欠と考えるのが妥当である。簡便な提案で粗選りした後で提案を求める二段階選定は、応募者の負荷軽減と評価のための提案の具体性が両立出来る有効な方法でもある。

⑤開かれたプレゼンテーション

プレゼンテーションを公開の場で行うことは、審査の公明性や市民の参加を喚起する上で大切である。提案者がそこで使用する素材は、公平性の観点から技術提案書の内容に限定することが一般的である。一方、審査については完全に公開するものから非公開とするものまで様々であるが、いずれの場合でもその経緯については文書の形で開示することが原則となっている。

⑦事後評価・共有・フィードバック

提言の冒頭でも述べたように、人口減の中で、ひとつひとつの建築を丁寧に計画・設計を行うのが当たり前の時代となっている。ここでは、能力によった設計者選定の結果が、5年後10年後に、利用者や周辺の市民、そして地域社会の中でどういった位置づけを持つようになったのか、継続的な検証が重要となる。この知見を共有し、新しい設計者の選定や公共建築物の全体的な管理に反映するフィードバックを持続することは、我々の社会を豊かにする上で有効である。



出典：一般社団法人日本建築学会：長く大切にされる公共施設のための提言
京都府：京都府公募型プロポーザル方式事務マニュアル

〈コラム〉ひろしま建築学生チャレンジコンペ

社会環境の整備は長い時間のかかる事業でもあり、志のある人材を創出し続ける人材育成の面が極めて重要と言える。「魅力ある建築物創造事業」においても、2013年からそのような意図に則って「ひろしま建築学生チャレンジコンペ」という企画を継続している。全国の建築学生を対象にした県内の公共建築物の建設を行う設計競技であり、これまでも著名な建築家を審査委員長に招いて、公開で審査を行ってきた。

この事業が特筆できるのは、単に学生向けというだけでなく、選ばれた案を、県の営繕担当がサポートしながら実際に作り上げる点である。

学生が、設計・監理に関わりながら実際に作り上げるという新規性が評価され、「2018年日本建築学会教育賞（教育貢献）」を受賞している。自治体受賞は、教育賞創設後初めてのことである。

2018年 「絶景展望台にあってよかった以上のトイレを」

・募集要項

公衆トイレは、最も小さな公共建築です。だから大きな公共建築と同様に、様々な次元での「公共性」が求められます。

誰にとっても使いやすく機能的であることはもちろん、安心安全で、快適であることも必要でしょう。また敷地が瀬戸内海を見渡す大変素晴らしい場所にありますから、周辺の環境と調和しつつも、この地域の潜在的な魅力を掘り起こしてくれるような、発見的な視点も重要だと思います。

とても小さな建築ですが、公共建築として現実に建ち上がる貴重な機会です。大きな建築に負けたくないのたくさんの建築的知恵を総動員し、素晴らしい提案をして下さることを期待しています。

・対象建築物

- 瀬戸内海国立公園高見山公園内トイレ（尾道市向島町）
- 応募作品数 / 参加者数：57作品 / 122名
- 審査委員：千葉学、後藤亜貴、濱田昌範（他2名）
- 最優秀作品：安田女子大学



2017年 「自然公園のトイレ」

・募集要項

大自然に囲まれ、三倉岳の存在をどこにいても感じることができる自然公園。この公園に建つトイレは、自然公園の環境を取り込んだ気持ちのいいもので、かつ誰もが使いやすい開かれた場所となることが重要です。

トイレは、プライバシーが確保され、安心できる場所であればならず、また、使い勝手、快適さ、機能性、耐久性は重要です。それに加えて、大自然と共存する建築であることが求められます。

自身の建築が現実に建つ、またとないチャンスです。創造的な建築を期待しています。

・対象建築物

- 三倉岳県立自然公園内のトイレ2棟（大竹市栗谷町栗林地区内）
- 応募作品数 / 参加者数：77作品 / 141名
- 審査委員：西沢立衛、今川忠男、石川誠
- 最優秀作品：滋賀県立大学



2016 テーマ「未来を作る部屋」

・募集要項

同じ思いをもつ学生同士が集まる部屋、青春の思い出が詰まった場所です。一方で、部屋は、教室では学べないことを学ぶ場所という側面があり、社会的にみれば、そこでの濃密な活動を通してたくましい人格を形成するウツワであるともいえます。部屋の設計には、使い勝手、快適さ、耐久性だけでなく、部活に対するプライドを受け止めることができるような普遍的な価値をつくるのが大切です。

部屋は未来をつくっている、そうした思いをもって、クリエイティブで、かつ実現可能性のある建築を設計してください。

- 対象建築物：県立広島工業高等学校 野球部・弓道部部屋（広島市南区出汐2丁目4-75）
- 応募作品数 50作品
- 審査委員 乾久美子、藤本寿徳、中菌哲也（他2名）
- 最優秀作品賞 広島工業大学



2015 テーマ「小さな建築の可能性」

・募集要項

新しく発展していこうとしている場所に建つ、古くなった小さなトイレを更新します。小さな建築ですが、地域の人、散歩する人、港から旅立つ人など、様々な人が立ち寄ります。使い勝手、心地よさ、耐久性、掃除のしやすさ、周辺との調和、建築の価値など、「可能性」といっても様々ですが、新しくこの場所に建つトイレには、どんな「可能性」が求められるのでしょうか？どんなトイレであれば、まちの「可能性」にも働きかけられるのでしょうか？クリエイティブで、かつ実現可能性のある建築を期待しています。

- 対象建築物：御幸松広場トイレ（広島市南区御幸松地区）
- 応募作品数 53作品
- 審査委員 小嶋一浩、土井一秀、吉田豊（他2名）
- 最優秀作品賞 広島工業大学



2014 テーマ「まちの交番」

・募集要項

古い交番が、これから新たに生まれ変わる場所に移転し、建て替えられます。今までも、まちの人たちを守り、まちの人たちのために働いてきた交番です。新たな場所に、新たに建て替えられるその交番は、どのようにまちとつながり、どのように人とつながるのでしょうか？クリエイティブで、かつ実現可能性のある「まちの交番」を期待しています。

- 対象建築物：福山東警察署 野上交番（福山市千代田町1丁目1-1）
- 応募作品数/参加者数 39作品/80名
- 審査委員 青木淳、前田圭介（他3名）
- 最優秀作品賞 広島工業大学



2013 テーマ「君田の自然の魅力を引き出すこと」

・募集要項

「君田の自然の魅力を引き出すこと」計画地は、北を大谷山、南を狐塚山、西を高幡山の山林に囲まれており、旧君田村の中央を南北に流れる神之瀬川の東に位置しています。冷涼多雨な気候であり、また、冬季には多量の降雪がある豪雪地帯となっています。これら自然豊かな敷地周辺の環境や地形、地域の気候を読み込み、君田の自然と一体となった魅力ある建築を提案してください。新しい発想により導き出された新たな建築が提案されることを期待しています。

- 対象建築物：ふおレスト君田駐車場トイレ（三次市君田泉吉田311-3）
- 応募作品数/参加者数 25作品/73名
- 審査委員 三分一博志、高田由美、前田圭介（他3名）
- 最優秀作品賞 穴吹デザイン専門学校

